

実績報告書

令和3年度「鶴岡まち活事業」

テーマ：犠牲者をださない町内防災体制づくり（城北町防災委員会）

1. はじめに

西日本豪雨の際、岡山県真備町では高梁川等の氾濫に伴い、100名余の方が亡くなりました。特に、高齢者が50名余、それも1階で命を落とされた。これは、著名な片田敏孝氏（鶴岡での講演：WEB）の話である。先生は「これでいいのか……」問題提起された。つまり、豪雨災害の場合、犠牲者は高齢者で1階で亡くなる方が多いということである（2階があっても）。城北町には青龍寺川が近接し、2020年7月末の出水時には流域にもう少し豪雨が続くと河川氾濫の事態に直面したと思われる。

このような背景から、「犠牲者をださない町内防災体制づくり」のテーマに取り組むこととなった。

2. 地球温暖化について

2020年7月末、最上川、赤川が出水しました。日本周辺の海水温も高く、その影響で豪雨をもたらしました。いま気候危機と呼ぶべき非常事態が起こっています。世界各地で、異常な豪雨、台風、熱波、森林火災、干ばつ、海面上昇などの問題です。「地球が燃えている」とも言われています。この日本でも「何十年に一度」という豪雨災害が、毎年のように発生しています。地球の平均気温の上昇を、産業革命前に比べて、1.5度以内に抑えないと大変なことになると言われています。

3. タイムラインについて

最近、新聞などで「マイタイムライン」という言葉がみられ、マイタイムラインの作成事例も検索できます。タイムラインとは「防災行動計画」のことで、マイタイムラインは自分（家族を含めた）のタイムラインづくりです。

縦軸に-72h, -48h, -24h, -16h, -9h, -2h, 0hの時刻をとり、横軸に気象・水象情報、酒田河川国道事務所→鶴岡市等のラインでタイムラインがつくられています。治水対策は今日「タイムライン（事前行動計画）」として進んでいます。片田敏孝氏は「ハザードマップを信じてはいけない」としています（朝日2013.2.26付）。「正常性バイアス」という「大丈夫」という「偏見」ではなく、事実に基づいて（科学的に）のぞむことが大切だと思います。今住んでいる場所で、豪雨水害の一連の事を想像し、準備をすることが重要です。

4. 計画高水流量を超える出水量と青龍寺川の課題

最上川・赤川流域では2020年7月27-29日に豪雨災害があり、赤川の羽黒橋で4.57m(観測所で2位、※1位S44:4.63m)、青龍寺川高坂観測所で28日13時頃氾濫危険水位を超えました。最上川本川では次の観測所が既往最大の水位を観測しました。上流側から順に長崎、下野、大石田、堀内。2位はS42の羽越水害でした。大石田ではS42に比べて1.72m高い水位でした。最上川では計画高水流量以上の出水量があり堤防越水等しました。

さて、赤川流域内の青龍寺川は長さ19.3km、自流域30.6km² 下流の青山地点で赤川本流に合流します。一方、青龍寺川上流の分水施設(丸岡分水堰)で内川方面にも分流します。赤川本川の水位が高くなると、内水氾濫を起こします(本川から逆流)。周辺が緩い地形勾配であるので青龍寺川は治水上難しい位置関係にあります。地球温暖化の進行で洪水時における流下量が増しています(激甚化)。しっかりした対策が必要です。

平坦な城北町は青龍寺川の西側に近接し、いくつもの下水道(開水路)が位置しているため、浸水、軟弱地盤、強風など災害に脆弱な地区です。また、自主防災組織とは名ばかりで実体がなく意識も周辺地区と同様に希薄であり、いざ災害が起こった時に適切に対応できそうにありません。

5. 防災委員会の取り組み

- 町内会に各部長や実働部隊を含む「防災委員会」を立ち上げ、委員会が中心になって活動しました。
- 隣組長対象の防災学習会(7月10日、2021.4現在隣組数29組);テーマ:「地球温暖化と豪雨水害…マイタイムラインについて…」。終了後、隣組長にアンケート配布・回収依頼(各戸へ)。
 - ・アンケート内容は現状が把握できるよう工夫しました。
 - ・アンケートの集計、分析(主に基本的な整理)(委託)
 - ・アンケートの分析概要結果を全戸配布しました。
- 地域住民を対象とした防災啓発学習会を実施した(1月13日)。学習会テーマ:「災害に備える…地震・風水害…」
- コロナ禍の下、避難の実践につながる取り組みには至りませんでした。

6. アンケート結果（概要）について

町内会会員に配布した調査結果を示します。配布枚数（世帯数）：378枚、回収枚数：290枚、回収率：78.4%。なお、民生委員とのデータの突き合わせで、一人暮らしで認知症等のためアンケートを回収できなかった方が5人おりました。

「7月10日、隣組長会議で依頼し、皆様に回答いただきました、防災委員会活動マニュアル作成のための調査結果の概要を報告します。回収率は78.4%でした。ご協力ありがとうございました。詳細は個人情報保護のため記しません。

○災害発生時に避難支援を希望する方（おねがい会員）

- ① 一人暮らし 9人
 - ② 夫婦二人暮らし 10人
 - ③ 息子などと同居 19人
（日中勤務で不在のため等）
- ①～③のおよその年齢70～94歳

○災害発生時に避難の手助けに協力いただける方（おまかせ会員）

- ①協力を特に条件なし 29人
 - ②協力を条件あり 41人
（土、日曜日のみ等）
 - ③その他 2人
（病院勤務、消防士）
- ①～③のおよその年齢30～79歳

○情報等：鶴岡市では、「避難行動要支援者個別避難計画」づくりを進めています。10月29日（関係者3人）、説明を受けました。避難行動要支援者（定義あり）の「個別避難計画」づくりは具体的には課題が多いように思います。いずれにしても今回の調査結果を踏まえ、今後の進め方等はまずは防災委員会で検討いただくこととなります。」

7. 取り組みの成果と今後の予定

取り組みの成果は次のようです。

- 学習会の実施により町民の防災意識の向上がみられた。
 - ・アンケート調査結果の周知を通して、町内の要支援者の状況を共有できた。他方、防災（ソフト）に協力する多数の町民がいることが具体的に分かった。
- 「犠牲者をださない町内防災体制づくり」の点では、災害要支援者の実態を具体的に把握できたことは貴重である。
 - ・なお、災害要支援者のうち、アンケートに答えられない方（認知症などのため）数名いることが民生委員とのデータの突き合わせ等でわかった。
- これらの判明事項は、これからの「犠牲者をださない町内防災体制づくり」を進めるに際し、重要であり、今回の手法は手間はかかるものの有効であることが判明した。

本テーマで扱った類似例は近隣の地区にもあるようである。本成果を基に「避難」の訓練を試みる前に先進事例を入手できれば教訓となる。櫛引地区は要支援者避難に関する事例である。また、日出東町内会では今回行ったアンケートの参考となった事例で、本町内より1年先に調査を行い、2021年末までに一定の取りまとめを行うと伺っている。上記2事例は本町内で避難訓練の「実践」を検討する際の参考になると思われる。

災害時発生に **避難支援を希望される方** はご記入ください

災害発生危険時に避難する際、手助けを希望される方は、以下の記入用紙にお名前／住所等を記入の上、隣組長さんを通して防災防犯部長に提出していただくこととなります。

提出していただいた方への支援方法については、今後、防災委員会で検討していきます。

但し、相手は自然であり、いつ何時又、想定を超える災害も起こり得るため、**必ず避難の支援を行うことをお約束するものではないこと**にご理解をいただきたいと思えます。**その時、町内にいる方で、出来るだけの支援をしよう**ということです。

尚、個人情報 は町内会で管理し、災害時対応を検討する場合以外の用途では、使用しないことをお約束いたします。**【今後、3年程度ごとに更新調査を実施予定です】**

■集約方法等：7/31(土)までに、隣組長さんが訪問回収いたします。

(各自、自前の封筒に入れて、隣組長さんに渡していただいてもかまいません)

※手助けを希望しない方は、回収袋に隣組番号を記入し、回収袋のみ提出してください(内部の資料は不要)。

-----きりとり線-----

《おねがい会員記入用紙》

◇私は、災害時に避難する際に、手助けを希望します。

【記入日】 令和 年 月 日

| | | | |
|-------|---|----|-----|
| 名前 | (歳) | 性別 | 男・女 |
| 名前 | (歳) | 性別 | 男・女 |
| 名前 | (歳) | 性別 | 男・女 |
| 住所 | 隣組番号 | | |
| 電話番号 | | | |
| 同居家族 | 一人暮らし・夫婦二人・子どもと同居・他 () | | |
| 特別な事情 | ※手助けをしてもらう方に伝えたいこと。差支えない程度に、具体的に記入してください。(例) 足が悪いため、息子夫婦がいない昼間は支援してほしい等 | | |

災害時発生に **避難の手助けに協力いただける方** はご記入ください

災害発生危険時に避難する際、手助けを希望とする方への支援協力が可能な人は、以下の記入用紙にお名前／住所等を記入の上、隣組長さんを通して防災防犯部長に提出していただくことになります。

提出していただいた方の支援協力方法については、今後、町内会で検討していきます。ここでお願いするのは、その時に**在宅中で、協力することができる場合に、お手伝いしてもらう**ことです。そのため、**まかせて会員に申し出たからと言って特別な責任が生じるわけではありません。**

尚、個人情報 は町内会で管理し、災害時対応を検討する場合以外の用途では、使用しないことをお約束いたします。**【今後、3年程度ごとに更新調査を実施予定です】**

■ **集約方法等：7/31(土)までに、隣組長さんが訪問回収いたします。**

(各自、自前の封筒に入れて、隣組長さんに渡していただいてもかまいません)

※協力不可能な方は、回収袋に隣組番号を記入し、回収袋のみ提出してください
(内部の資料は不要)。

-----きりとり線-----

《まかせて会員記入用紙》

◇私は、可能な場合に、災害時の避難支援に協力します。

【記入日】令和 年 月 日

| | | | |
|----------|-----------------------|-----------------|-----|
| 名前 | (歳) | 性別 | 男・女 |
| 名前 | (歳) | 性別 | 男・女 |
| 住所 | 隣組番号 | | |
| 電話番号 | | | |
| 協力可能な時間帯 | (1) 平日日中 (曜日：) | (2) 平日夜間 (曜日：) | |
| | (3) 休日日中 (曜日：) | (4) 休日夜間 (曜日：) | |
| 特別な事情 | ※支援に際し、条件等があれば記入ください。 | | |